

市民と野党の共闘で、新しい政治実現へ！

民報

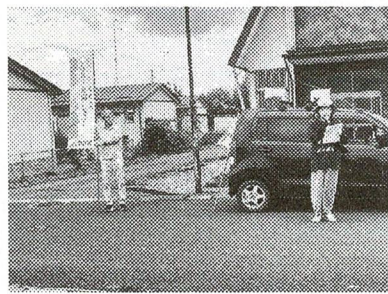
おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目59
Tel 24-2021
Fax 24-2049



佐倉河地区宣伝チームと
真城地区宣伝チーム



南地区宣伝チーム



姉体地区宣伝チーム



原中地区宣伝チーム

7月20、21日、東北ブロックいつせい宣伝に呼応して、日本共産党奥州市委員会は議員団・地区役員、党員による、街頭宣伝行動を行いました。

岸田自公政権の内閣支持率は、大軍拡と経済無策で2割を切っています。自民党は裏金問題で国民の怒りと不信を招いています。真相究明と企業団体献金の禁止に背を向け、裏金づくりを温存する政治資金規正法の改悪で、幕引きを図ろうとしています。

平和・暮らしなど、あらゆる面で国民の願いに背を向ける岸田自公政権から、市民と野党の共闘で、憲法を生かした新しい政治を求めて行きましょう。

奥州市はCO²排出ゼロを目指す

7月26日奥州市議会は市議会全員協議会を開き、「2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指すこと」の表明について「市当局から、説明を受けました。これは、CO₂などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成することです。

現在、地球温暖化への対策が世界共通の喫緊の課題となる中、国は2050年までにカーボンニュートラルを実現するという野心的な目標に向けて、一丸となって取組を推進しています。

奥州市においても、気候変動の影響から市民の暮らしを守り、世界に誇る豊かな自然環境を次世代へひきついでいくため、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目指し、市民、事業者との協働により、地域の地球温暖化対策として、市調達エネルギーへの再エネ導入の推進などに取り組めます。

豪雨災害調査で

酒田市と鶴岡市へ佐



日本共産党
参議院議員
いわぶち友

7月29日

酒田市では、関徹県議、酒田市議団、山田守3区予定候補と安川智之副市長から被災の現状をうかがいました。予算の確保と応援の人手が必要と要望がありました。

その後、被害が大きかった八幡地域へ。浸水した保育園、橋には壊れた水道管、国道344号線沿いのお宅や田んぼには流木と土砂が流れ込んでいました。被害があまりにも大きい。

荒瀬川と日向川の合流地点では、堤防を越え、その先の田畑や住宅に水が押し寄せました。

鶴岡市では、関徹県議、市議団と藤島庁舎の成田支所長から、市役所で阿部真一副市長から話をうかがいました。

京田川が氾濫。災害の常習地帯だといいますが、これほどの増水はなかったとのこと。田んぼや大豆も水没。大豆の葉に泥がついたままで光合成もできない状態です。農業被害も深刻です。

河川の改修など行われてきましたが、抜本的な対策をとる望がありました。

県議団、市議団とも連携して取り組んでいきたいと思っています。

気候危機対策を一貫して要求

この地球温暖化対策の計画に

ついては、瀬川貞清議員が、令和4年2月議会以降4回にわたって、一般質問で取り上げてきたものであり、市の今回の説明として、成果に現れました。

瀬川議員は、国連気候変動枠組条約に基づく地球温暖化ガスの削減について、奥州市として、地球温暖化対策実行計画の区域施策編をつくり、国や県と歩調を合わせ、強力に取り組むことを求めています。

担当者は「市として、地球温暖化全体を取り仕切る部門がないので、今後司令塔にあたる組織の検討をすすめていく。求められている地球温暖化対策実行計画の区域施策編についても取り組んでいきたい」と述べていました。

今回の説明では「脱炭素社会の構築」を計画の柱とし、瀬川議員の主張が取り入れられました。